

恵那市議会委員会行政視察報告書

1. 委員会名 経済建設委員会
2. 視察年月日 平成29年8月1日から平成29年8月3日まで3日間
3. 視察委員名 千藤 安雄、近藤 純二、佐々木 透、橋本 平紀、安藤 直実
荒田 雅晴
4. 随行者 議会事務局書記 鈴木 聡
5. 視察地及び視察事項の概要

月 日	視 察 地	視察事項の概要
8月1日	上伊那森林組合 【木質バイオマスエネルギーの取り組みについて】	別紙のとおり
8月2日	栃木県さくら市 【道の駅 きつれがわの取り組みについて】	
	栃木県真岡市 【真岡鉄道の取り組みについて】	
8月3日	静岡県藤枝市 【エコノミックガーデニング事業について】	

上記のとおり報告します。

平成29年8月30日

恵那市議会経済建設委員会

委員長 千 藤 安 雄

恵那市議会議長 荒 田 雅 晴 様

1. 上伊那森林組合 【木質バイオマスエネルギーの取り組みについて】

1) 視察の目的

上伊那森林組合では、木質バイオマスエネルギー工場を平成15年に竣工している。間伐材等を使用して木質ペレットを製造、販売をしている。多くの山林を持つ恵那市でも、今後、森林資源をエネルギーとして活用することを考え調査研究を行う。

2) 調査事項・概要

上伊那森林組合の概要

上伊那森林組合は、辰野市、箕輪町、南箕輪町、伊那市、駒ヶ根市、宮田村、中川村、飯島町の8つの市町村からなり、広大な山林を経営しており、組合長は伊那市長が務め、他の関係市町村長も役員に加わっている。

木質バイオマスエネルギー工場

敷地は13,285 m²で建物面積は3,367.58 m²。工場内では6名の作業員がおり、大部分は自動で製造を行っている。建物自体は空き屋を再利用。ペレット生産能力は時間10トンで年間約1,750トン。

間伐材は、規格の合うものであれば1トン6,000円で個人からの受け入れも可能としている（伊那市はプラス2,000円/トン）。

上伊那森林組合では、「ピュア1号」という木質ペレットを製造しており、日本木質ペレット協会の全国第1号で認証されている。

木質ペレット

木質ペレットとは、丸太や樹皮等の木質バイオマスを原料に作られます。丸太などの原料を細かいオガ粉状まで砕き、それを圧縮し棒状に成形したもので、大きさは、直径6mmで長さ1.5cm前後である。種類は、木部、全木、樹皮の3種類があるが、上伊那森林組合の「ピュア1号」では、丸太そのものを原材料とするため樹脂を含む「全木ペレット」を製造している。



木質ペレットの特徴は、木材と成分が変わらず薪を燃やしている時のような暖かさがああり、水分量が低く着火し易い。10kg燃やしてもわずか20gしか焼却灰が出ない点や、水分量が少ないので室内で結露しないことも特徴である。



▲ オガ粉状に砕かれた丸太や樹皮



成形されると



▲ 棒状に成形されたペレット

木質ペレット製造、販売

上伊那森林組合でのペレットの販売数量は右肩上がりが増えており、平成 29 年度は 2,800 トンを越え、全てが使用される見通しである。工場もフル稼働で運営され、年々製造及び販売量が増える見込みである。一般家庭のほか、福祉施設や保育園、温泉施設などでの使用も推進しており、購入には補助金等の活用もある。木質ペレットは、一般家庭向けの 10 k g 袋詰めの他に、温泉施設など大型施設のボイラー向けに 500k g 入りのフレコン詰めも販売している。

原材料として、アカマツとカラマツを使用しているのは、長野県伊那地域では、アカマツやカラマツの量が多いためである。これは昔、赤松が電柱に使われていたため多く植えられたという歴史もある。岐阜県では杉やヒノキが多いが、杉やヒノキでも木質ペレットは製造可能。

なお、製造過程で出てくる商品規格に入らないものは、原材料を乾燥させる熱風炉などの機器の燃料として使用されている。

3) まとめ

世界の木質ペレットの生産は、アメリカが 200 万トン、カナダ、ドイツ、スウェーデンが 170～180 万トン。また消費は、アメリカ、ドイツ、スウェーデン、イタリア、デンマーク等で 120～230 万トンであり、日本は僅か 12 万トンと化石燃料の占める割合が極めて高い。

そうした中で、上伊那森林組合では森林面積を活かした資源への活用を製品化し、地域の特徴を事業とし最大限に活力されていた。コスト面だけで考えるのではなく、環境や森林整備、地元資源の有効活用などを本格的に考えている方が多いのではないかと感じた。

恵那市においては、山林面積が多く間伐もされているが、間伐材がそのまま山の中に放置されるのが現実である。近年、災害等では、そういった放置された間伐材等が流れ出て橋につかえて大きな被害になる事も報道されている。間伐材からの木質ペレットを活用したバイオマスも考えていければ災害の減少という観点でも成果が出てくると思われる。石油燃料と比べると一步譲るところはあるが、原材料が身近なところから調達できる点や森林整備、温暖化防止及び循環型社会の形成などの良い点も多々ある。恵那市も山林が多いことから補助金を利用し、森林組合などと調査研究を行っていく必要がある。



▲説明を受ける委員の様子



▲工場内で製造過程の説明を受ける委員

2. 栃木県さくら市 【道の駅 きつれがわの取り組みについて】

1) 視察の目的

道の駅きつれがわは、平成 29 年 4 月にリニューアルを行い、新館は「大正ロマン」をコンセプトにされレトロ感のある風貌となっている。また、関東の好きな道の駅アンケートでも常に上位であり、全国好きな道の駅 50 選にも選ばれている。

恵那市内には、三郷町、山岡町、上矢作町の 3 カ所に道の駅があると共に、明智町では日本大正村を有することから、道の駅きつれがわの取り組みや今後のビジョン等について調査研究を行う。

2) 調査事項・概要

道の駅「きつれがわ」の概要



喜連川地区の南東で荒川と内川が合流する風光明媚な場所に平成 13 年 6 月に栃木県内 8 番目の道の駅としてオープン。地元農産物や特産品を主力に、観光情報サービス、食事、休憩は基より日本三大美肌の湯を誇る日帰り温泉施設は喜連川地区の観光スポットにもなっている。客層としては、市内が 6 割、市外が 4 割であり、週末の県外からの来客は埼玉県が多い。

リニューアル

道の駅「きつれがわ」は、明治・大正・昭和を生きた日本三大童話詩人の野口雨情の妻の出身地である事から「大正ロマン・大正モダン」をコンセプトに、平成 29 年 4 月にリニューアルオープン。メインテーマは「立ち寄る場所から目指す場所」である。案内には、大正ロマン演出のため矢絣衣装の職員を配置し、イメージアップに努めている。オープン後は目標の 200%の売り上げがあり、本年度は 7 億 4,400 万円の売り上げ目標とし、10 年後は 10 億円を目標としている。売り上げ増の要因の 1 つとしてクレジットカードの利用を可能にした事がある。リニューアル関係で建築工事費が約 4 億 1,700 万円、機械設備工事費が約 1 億 2,000 万円、電気設備工事費が約 1 億 2,000 万円。その他に太陽光発電設備、厨房備品、駐車場整備費などがあります。リニューアルの際に駐車場の収容台数も 188 台から 233 台に増やしたが、土日の来客数に対応できず 300 台駐車可能にするため更に増やす方向である。JA の O B が採用されており、農家から持ち込まれる野菜をチェックし、より良い商品が提供されている。リニューアル工事期間中は、休業していただいた店舗もあるが、農家は突然やめるわけにはいけないため仮のプレハブ小屋にて営業を行った。



▲ 道の駅きつれがわ 外見



▲ 道の駅 観光情報コーナー

支配人のマネージメント（考え方）

支配人は東武百貨店出身者であり、デパートでのアイディアを随所に盛り込み、その手腕が大きいと考えられた。主な考え方や意見をまとめると下記のとおりとなる。

- ・商品の外箱のデザインやネーミングを大正ロマン、モダンに変える事により、売り上げが飛躍的に伸びた。また、徹底した関連商品の開発が必要である。
- ・隣接する温泉施設などと連携を図り、滞在時間を多く取れるようにしたことにより、温泉の利用客も増え相乗効果を出している。
- ・商品の陳列には細心の注意を図り、お客さんから見やすい棚の高さや照明をLEDにするなどの工夫。



▲ 知久支配人による説明

3) まとめ

道の駅「きつれがわ」は、平成29年4月にリニューアルを行い、集約・売り上げでも目覚ましい伸びを示していた。視察した日は水曜日であったが、飲食施設や特産品直売所などは大勢の人がお見えになっており、平日とは思えない賑わいであった。東武百貨店出身者である支配人の知恵や経験により、車椅子の方やカートを押した方のために通路幅を1.5m確保、直売所入り口には花コーナー、壁面には話題商品を陳列、本館情報コーナーには観光PR用モニターを4台並べて設置など、百貨店内を思わせるようなレイアウトでもあった。観光客へのもてなしもさることながら、地元の方も利用しやすく来やすい施設になっている。

恵那市においても、道の駅を3カ所所有しているが、今回視察に行った道の駅きつれがわと比べると建物規模や敷地面積、人口密度等では劣るが、陳列方法やレイアウト、パッケージの改良や商品内容の見直しなど考えていく必要がある。今や道の駅は単なる立ち寄りの休憩所ではなく、目的地として変わってきていると感じました。



▲ 道の駅 直売所の様子



3. 栃木県真岡市 【真岡鉄道の取り組みについて】

1) 視察の目的

真岡鉄道は、茨城県下館駅から栃木県茂木駅の約 40 キロを 1 時間余りで結ぶ第三セクターの鉄道である。沿線で暮らす人の足として、また朝は高校生の通学で利用されている。1994 年 3 月から、S L を運行。明知鉄道での取り組みや S L 運行の参考のため、真岡鉄道の取り組みや課題等について調査研究を行う。

2) 調査事項・概要

真岡鉄道の概要

昭和 63 年 4 月より第三セクターにより真岡鉄道を開業し、平成 6 年 3 月より S L の運転を開始している。真岡鉄道は 4 駅が有人駅で残りの 13 駅は無人駅である。公共交通としての役割では、真岡線沿線に 7 つの高校があり、通学の足となっている。鉄道利用収入の 50% 弱が通学生利用となっているため、近年の少子高齢化の影響は大きい。鉄道事業の他にデマンドタクシー事業も指定管理を受け、行っている。

全従業員数：60 名（社員 49 名、出向 1 名、嘱託員 10 名）

正社員の内訳：運転課 22 名、公務課 5 名、営業課 9 名、検修課 7 名、
担当課 1 名、総務 3 名、役員 2 名、旅行センター 1 名

S L 運行事業

42Km の鉄道沿線 2 市 4 町による「S L 運行協議会」が主体となって運営している。

【S L 運行協議会の目的】

真岡線に S L を運行する事で真岡線沿線のイメージアップと開発振興を推進し、2 市 4 町の活性化と真岡線の利用客を誘発し、誇りと愛着のもてる広域的なふるさとを築きあげていくとともに、子どもたちに夢とロマンを与えることを目的とする。

S L の運行は、毎週土日と祝日に 1 日 1 往復、茨城県下館駅と栃木県茂木駅間（41.9km・17 駅）を運行。夏休みの期間は金曜日も運行している。S L の乗車率は 60% 台で推移している。年間の輸送人員数は約 4 万人で運行から 23 年経過したが東日本大震災の年度以外での極端な利用者減少はない。

現在の S L 免許取得者は 5 名（平成 6 年の開業時は国鉄の O B で 2 名）。

近年の営業状況は、営業収益約 4,500 万円に対し運行費用は約 8,480 万円、営業損益の約 3,980 万は運行協議会の沿線自治体が分担金として対応している。また運行コストの他に、6 年に 1 回の全般検査として 1 億 6,000 万円。客車も 8 年に 1 回の全般検査で 3,500 万円。4 年に 1 回の重要部検査で 500 万円などが必要である。

初期投資額は、S L の購入費や客車・軌道整備費、橋梁調査や要員育成費などで約 8 億 2,472 万円かかっている。

S L 運行により、多くの乗客や見学者には来ていただいているが、その方々を沿線自治体の一押し観光スポットなどへどう繋げていくかも課題である。

PR活動

ハロウィン仮装トレインやクリスマスサンタトレイン、イルミネーションSLや真岡鉄道999号など各種イベントを開催。また、車両の貸し出しも行っている。

また、子どもを対象としたSL教室やSLガイド体験、写真教室を開催し、SLに関心を持っていただく場を提供している。

真岡駅横には、「SLキューロク館」というSL展示施設があり、SL車両や旧型客車などに乗車見学ができるようになっている（平成26年4月にオープン。真岡鉄道が真岡市より指定管理を受けている）。土日祝日には1日3往復SLと車掌車を連結して走行するので、来場されたお客さんには好評である。誘客効果は大きく、観光振興の拠点施設としての役割も担っている。



▲ SLキューロク館 外観



▲ SLキューロク館展示客車

3) まとめ

恵那市の明知鉄道では、SLをエアコンプレッサー駆動で構内120mを走行している。現車両を走行させるには、枕木・線路・橋梁等の耐久性の点検や補強補修作業が必要である。真岡鉄道での話では、特に橋梁の負担力が一番の問題のようである。また車両の関しても、初期の改修費用が必要になるなど費用面で大きな負担が考えられる。日本一早いリニア新幹線と日本一遅いSLを組み合わせて観光客を呼び込むことは面白い考えである。栃木県日光市でも平成29年8月からのSL運行がメディアで取り上げられるなどPR面では大きな期待が持てる。また、SLのみならず沿線市町がメディアに露出する機会は確実に増え、乗客を含めた観光客の誘客だけではなく、沿線市町の認知度が高まり企業誘致や各種キャンペーンなどの誘致の際に役立っているとの説明があった。ただし、現在の第三セクターでの運営を考えると、投資効果や運営費などで厳しい点もあり、しっかりと検証していく必要がある。



▲ SLをモチーフにした「真岡駅」



▲説明を受ける委員

4. 静岡県藤枝市 【エコノミックガーデニング事業について】

1) 視察の目的

エコノミックガーデニングとは、企業家精神あふれる地元の中小企業が活躍できるビジネス環境を創出し、地元企業を成長させることにより地域経済を活性化させる政策で、藤枝市は平成 23 年より先進市として「エコノミックガーデニング」を進めている。行政、企業のみが頑張るだけではなく、様々な機関、セクター、市民等も関わり地域の取り組みにすることが重要であると考え、藤枝市での先進的な取り組みについて調査研究を行う。

2) 調査事項・概要

エコノミックガーデニング事業の概要

「エフドア」は市から委託を受けたNPOが関連組織、有識者との連携・協力して運営し、ビジネスに関する相談や情報提供、起業・創業を応援し、中小企業チャレンジを活発化させるため、相談内容の深度に応じて、必要な支援や情報を的確に判断できる経験豊富な「産業コーディネーター」を配置している。首都圏で活躍してこられた松村コーディネーターが常駐され各種セミナー起業支援など様々な活動を行い成果を出している。会議所は会員に対しての支援は行えるが、まだ会員になる前の起業家に対してはできないため、それまでの支援なども行う。

エコノミックガーデニング支援センター「エフドア」

開設：平成 26 年 6 月

利用日時：火曜日、木曜日～土曜日 9：30～20：00

(土曜日は 17：30 まで)

場所：藤枝市駅南図書館内

(複合商業施設「Bivi 藤枝」3階)

運営：産業コーディネーター（1名：市職員）

運営スタッフ（2名：民間委託）

内容：起業・創業の相談から経営改善、マッチング、販売促進、セミナーなど、ビジネスのことなら何でも！

(平成 26 年に開設されているが、毎年利用時間など見直しを行っている)

※ エフドアが入っている複合商業施設「Bivi 藤枝」の2階には、「ハローワーク藤枝」が入っている。



事業実績

相談件数及び内容

相談件数 256件（平成 28 年度）

相談内容別件数 起業：125件。販売促進：44件。新事業：30件。ホームページ：12件。補助金関係：8件。資金調達：5件。既存事業の方向性の検討：3件。イベント：2件。商品開発：1件。その他：26件。

創業支援者数と創業者数

	支援者数	創業者	男性	女性
平成 26 年度	134 名	26 名	18 名	8 名
平成 27 年度	200 名	35 名	25 名	10 名
平成 28 年度	265 名	104 名	60 名	44 名

●主な創業者の業態 … 飲食業、製造業、士業、小売業、美容業、不動産賃貸業等

ビジネス講座、セミナーの開催

個別相談において相談者に共通する事が多い項目について、独自に勉強会を企画、開催し、講師の先生方との交流を経て、新たな人脈も形成されている。

- ・女性起業セミナー、事業引継支援セミナー、起業チャレンジャー支援セミナー、藤枝市ビジネススクールなど

特に女性の創業支援に力を注いでいて、平成 28 年度は 60 回の講座・セミナーを開催し、約 1,500 人の参加があり、104 名が創業している。

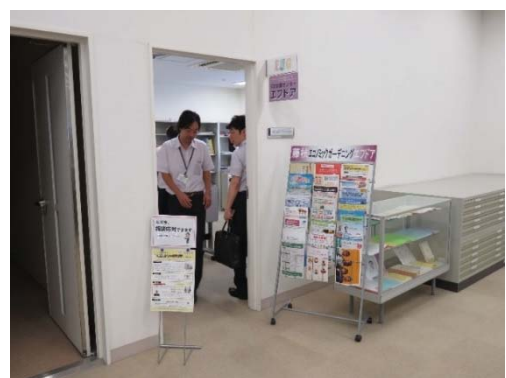
3) まとめ

恵那市では、今月「恵那くらしビジネスサポートセンター」を開設しました。今回、藤枝市で見聞きした事を参考にし、恵那商工会議所やハローワーク、金融機関等とも連携体制を構築し取り組んでいただきたい。藤枝市では、「藤枝エコノミックガーデニング推進戦略会議」が開催されており、産官学金のネットワークにより効率的な支援の体制づくりや新たな支援事業の検討、情報の共有や交換が行われている（産：商工会議所、商工会、JA 中小企業家同好会、静岡県産業振興財団。官：藤枝市、産業コーディネーター。学：静岡産業大学、駅南図書館。金：地方銀行、信用金庫、金融公庫）。藤枝市のコーディネーターは中小企業診断士の資格を持ち、確実な成果も出し、ビジネスに関する知識が豊富でアドバイザーとしては素晴らしい人であった。相談コーディネーターの専門的な知識が全てであり、このコーディネーターのポジションが最も重要であると感じました。また、起業を考えている方のニーズにあったセミナーや情報提供も必要であり、相談しやすく足を運びやすい窓口づくりが大切である。

なお、視察した静岡県藤枝市は、江戸時代に岩村藩の飛び地であった関係から、恵那市と「ゆかりの郷協定」が締結されています。



▲ 説明を受ける委員



▲ 支援センター「エフトア」